

# 『エマオ途上のイエス・キリスト』

’21/11/28

聖書箇所: ルカの福音書 24 章 13-43 節 (新約 p.169-)

少し前のことですが、ある皇族の女性が、それまで通っていた大学を辞めてまで、国際基督教大学を受験 & 入学されるというような報道がありました…。かつて、キリスト教が禁じられていた時代とは違って、現代におけるキリスト教は、実に、多くの方たちが好感を持ってくださっているようです。…にも関わらず、今もなお、多くの方たちが聖書の教えを受け入れることができないのは、やはり、イエス・キリストの復活を信じることができない！というのが、大きな理由になっているのではないのでしょうか？

正直、かつては、私自身も教会に通うようになって間もない頃、クリスチャンの方たちに対して、大きな魅力を感じながらも…、「自分はクリスチャンにはなれない！到底、自分には、イエス・キリストの復活なんて信じられっこない！」という風に思ったことがありました。「この 20 世紀にもなった現代に、こんな聖書が教える奇蹟なんて、到底、信じられない！」そんな風に思った次第です。でも、今日の聖書箇所は、イエス様の復活というものが、実は、私たちにとって必ず必要なもので…、しかも、そのことが、私たちに大きな恵みをもたらしてくれるものである！ということを教えてくれています。

## 命題: エマオ途上で現れたイエス・キリストが、弟子たちに教えてくれたこと？

そこで今日、私たちは、ルカ 24 章から、「エマオ」という町へ向かう途中で現れてくださったイエス様が、ご自分の弟子たちに対して、どんなことを教えてくださったのか？ということを見ていきたいと思います。そうすることによって、クリスチャンの皆さんが益々、イエス様の復活に感謝し…、この聖書のみことばに沿って歩いていってくださいますことを…、そうして、クリスチャンでない皆さんには、このイエス様こそが真の救い主であられ…、ここにしか救いの道が無い！ということを感じるきっかけになればと思います。どうぞ、聖書をお持ちでしたら、ルカ 24:13 以降をお開きくださいますようお願いいたします。

## I・キリストが死ななければならなかった、必要性！(13-26 節)

まず、最初に見ていきたいのは、今日のみことばの内、13-26 節の部分になります。この部分で記されていますのは、**救い主(＝キリスト)が死ななければならなかったという、その“必要性”について説明されてある**ように思われます。まずは、そのことを見ていきたいと思いますので、どうぞ、今日のみことばの内、13-26 節をご覧ください。

13 ちょうどこの日、ふたりの弟子が、エルサレムから十一キロメートル余り離れたエマオという村に行く途中であった。

14 そして、ふたりでこのいっさいの出来事について話し合っていた。

15 話し合ったり、論じ合ったりしているうちに、イエスご自身が近づいて、彼らとともに道を歩いておられた。

16 しかしふたりの目はささぎられていて、イエスだとはわからなかった。

17 イエスは彼らに言われた。「歩きながらふたりで話し合っているその話は、何のことですか。」すると、ふたりは暗い顔つきになって、立ち止まった。

18 クレオパというほうが答えて言った。「エルサレムにいながら、近ごろそこで起こった事を、あなただけが知らなかったのですか。」

19 イエスが、「どんな事ですか」と聞かれると、ふたりは答えた。「ナザレ人イエスのことです。この方は、神とすべての民の前で、行いにもことばにも力のある預言者でした。

20 それなのに、私たちの祭司長や指導者たちは、この方を引き渡して、死刑に定め、十字架につけた

のです。

21 しかし私たちは、この方こそイスラエルを贖ってくださるはずだ、と望みをかけていました。事実、そればかりでなく、その事があってから三日目になります。

22 また仲間の女たちが私たちを驚かせました。その女たちは朝早く墓に行ってみました。

23 イエスのからだが見当たらないので、戻って来ました。そして御使いたちの幻を見たが、御使いたちがイエスは生きておられると告げた、と言うのです。

24 それで、仲間の何人かが墓に行ってみたのですが、はたして女たちの言ったとおりで、イエスさまは見当たらなかった、というのです。」

25 するとイエスは言われた。「ああ、愚かな人たち。預言者たちの言ったすべてを信じない、心の鈍い人たち。

26 キリストは、必ず、そのような苦しみを受けて、それから、彼の栄光に入るはずではなかったのですか。」

## ●弟子たちの誤解

今読んだ部分の 13 節に、『ちょうどこの日…』と記されてありますように、この部分はすべて、イエス様が十字架にかけられた、すぐ後の日曜日に起こった出来事であります。その日曜日、イエス様の弟子たちの内の 2 人が、『エルサレムから十一キロメートル余り離れたエマオという村…』に向かっておりました。その内の片方が、『クレオパ』という人物であったことは、今日のみことばの 18 節を見れば分かります。「イエス様の弟子…」と言いましても、皆さんもご存知のように、イエス様には、所謂、「12 弟子」たち以外に、たくさん弟子たちが居たことは明らかであります。

この『弟子』と言いますのは…、イエス様から特別に選ばれて、それこそ、寝食をも共にした「12 弟子」以外にも…、ルカ 10 章に記されてありますように、「宣教のために派遣された 70 人」や、その他にも、多くの弟子たちがイエス様のことを慕って、そのイエス様に付き従っていたことが分かります。本来、「弟子」と言いますのは、その教師と個人的な係わり合いを持っていて…、ただ単に、その教師から教えられるだけでなく、その教師の教えを実践する者＝イエス様を信じて、救われた者であるはずでありました。そうですよね？

…にも関わらず、今日のみことばに出てくる弟子たちは、「かなり模範的な弟子たち」ではなかったようです。…と言いますのも、彼らは、自分たちの教師であったイエス様が教えてくださっていた内容を、よく理解できておらず…、しかも、そのイエス様のことを十分には信頼できていなかったからです。そういったことが、今日のみことばを通して伝わってきます。

そういったことが、やはり、彼らの言動になっても現われてきています。例えば、今日のみことばで、まず驚かされることは、彼ら弟子たちが、その教師でもあるイエス様に会って…、しかも、話をしながら、そのことに気付かなかったということです。しかし、この点に関しては、今日のみことばの 16 節に、**彼らの目が、何かによって、『ささぎられて』いた**ということですから、やむを得ないかも知れません。そう言えば、つい先週に私たちが学んだマルコ 16:12 にも、恐らく、このエマオ途上での出来事について、『…彼らのうちのふたりがいなかのほうへ歩いていったおりに、イエスは“別の姿で”ご自分を現された。』という風に記されてありました。…ひょっとしたら、この時、イエス様は何か見た目には、ちょっといつもと違った部分があったのかも知れません…。

でも…、今日のみことばは、彼ら弟子たちがイエス様に抱いていた期待と“落胆ぶり”を教えてくれています。どうぞ、今日のみことばの 19 節以降をご覧ください。まず、19 節の後半で、**彼らはイエス様のことを、こう説明しています、『…この方は、神とすべての民の前で、行いにもことばにも力のある預言者でし**

た。』って…。よくよく注意して聞いてみますと、彼らの説明は皆、過去形(＝もう過ぎ去ったこと、終わってしまったこと)で説明されてあるのです。『…行いにもことばにも力のある預言者でした…』って…。これが過去形で表現されてあるのは、もう、今はそうではないからです。つまり、イエス様は死んで、その生涯は終わってしまった！と彼らは思っていたのです。

だから、21 節でも、彼らは、『しかし私たちは、この方こそイスラエルを贖ってくださるはずだ、と望みをかけていました。…』と、ここでも、彼らのイエス様に対する希望が、もう過去のもので…。もう終わってしまったんだ！今は違う！ということが分かります。しかも、ここ 21 節の、彼らの説明を聞いてみますと、イエス様がイスラエルを贖ってくださるはずだ！という風にあって…。まるで、イエス様がイスラエルだけを救ってくださるかのような…。つまり、イエス様を、まるで、かつてのダビデか何かのように、政治的なリーダーとしてしか考えていなかったような印象を受けます。

でも、違いますでしょ？…確かに、イエス様は、「イスラエルの王」として生まれてきてくださいましたが…。でも、イエス様は、ただ単に、イスラエル“だけ”を贖うために、生まれてきてくださったのではなく…。私たち人類全体を罪から…。罪とその裁きから救うために、生まれて来てくださったわけじゃないですか！恐らく、今日のみことばに出てきた弟子たちは、そういったことが、まだよく理解できていなかったのです。だから、彼らは、その後、仲間の女たちから、『イエスは生きておられる！』ということを知ったにも関わらず…。そのエルサレムを後にして、エマオへ旅してしまっただけです。…というのも、彼らからすると、イエス様が復活された！なんていうのは、到底、信じられなかったのだと思われまう。

また、どうぞ、皆さん。23 節に注目していただきます？ここで、彼らは、仲間の女たち(＝マグダラのマリヤたち)が、『御使いたちの幻を見た…』というように話していますが、そうじゃないでしょ？彼女たちが見たのは、『御使いたちの幻』なんかじゃなくて…。実際の御使いたちであつたのです。このように、残念ながら、クレオパたちの説明には、幾つかの問題点があることが分かります。だから、イエス様は、その後の 25 節で、『ああ、愚かな人たち。預言者たちの言ったすべてを信じない、心の鈍い人たち。…』と言って、クレオパたちの信仰心の無さを嘆いておられるのです。

多分、皆さんは、ヘブル 11:1 のみことばを覚えてくださっていると思います。そのみことばが、『信仰は望んでいる事ごらを保証し、目に見えないものを確信させるものです。』と教えてくれているように、本物の信仰とは、自分が信じられないようなことであつたとしても…。あるいは、常識では考えられないようなことであつたとしても、確信を持つことができるのです！…と言うのも、真実なる神様が、そのことを約束し、保証してくださっているからです！だから、ヘブル 11 章で登場してくる「信仰の偉人たち」は皆、実際には見たことがないような様々なものを待ち望んで、神様に従い続けることができたわけです。…ね！

そのヘブル書 11 章に記されてあることですが…。信仰があつたから、例えば、あの義人ノアは、山の上であつても洪水が起こることを信じて、箱舟を完成させることができました。同じく、本物の信仰があつたから、あのアブラハムもまた、どこに行くのかを知らないで、自分の生まれ故郷を出て行くことができました。…と言うのも、アブラハムは、神が自分たちに、新しい別の地を与えてくださる！ということを強く信じていたからです。本物の信仰があつたから、アブラハムの妻サラも、年取った自分のからだを見ても、神様ならば、子どもを産ませてくださる！と信じることができたのです。

また、真の神様に対する全き信仰のゆえに、アブラハムは、その子イサクを、神に捧げることもできました。…と言うのも、神が予め、『イサクから出る者があなたの子孫と呼ばれる…』ということを約束しておいてくださったからです。だから、アブラハムは、もしも自分が、ここでイサクを殺したとしても、真の神様ならば、イサクのことをよみがえらせることもできると考えたわけです。…このように、どれもこれも皆、真の神様に対する信仰があつたからです！彼らは皆、神様から先に何かを見せてもらったわけではありませんでした。でも、神様の“言葉を信じた”のです！神を信じたのです！そうですね？

## ●最善なる、神様の御計画

しかし残念ながら、今日のみことばに出てくるクレオパと、もう1人の弟子に、それと同じような信仰を見ることはできません…。今日のみことばを読んで、分かってくることは、彼らもイエス様から数々の教えを聞いてはありましたが…。その聞いていたみことばが、本当の理解にまでは達していなかったということです。だから、イエス様もクレオパたちに対して、最善なる神様の御計画をもう1度、説明してくださったのです。それが、今日のみことばの 26 節の、『キリストは、必ず、そのような苦しみを受けて、それから、彼の栄光に入るはずではなかったのですか。』という言葉、言い方です。

このことに関しては、もう私たち何回も聞いてきましたが、これこそが、神様の御計画でありました…。

確かに、天の神様はイスラエルの国をローマから救い出すことはできました。でも、神様がそうされなかったのは、それが神様のみことばではなかったからです！最善ではなかったからです。だって、イスラエルをローマから救い出したところで、それだけだったら、また、別の国が興って…。イスラエルをおびやかすだけです。それに、イスラエルの国が再興したところで、私たち人間の犯した罪の問題が解決していなければ、最後に、私たちが行き着いてしまう先は、永遠の裁き(＝地獄)じゃないですか！

つい最近に、私たちが学んだように、イエス様は、あの十字架の上で、『わが神、わが神。どうしてわたしをお見捨てになったのですか』(マルコ 15:34)と叫ばれました。イエス様が、あの十字架上で、そう叫ばれたのは、その瞬間に、私や皆さんの罪を負ってくださったからです！罪をたった1度たりとも犯したことのないイエス様が十字架上で、そんな風に叫ばれたのは、本来ならば、私や皆さんが受けなければならぬ罪の罰を、イエス様が身代わりに受けてくださったからです。

この聖書のみことばが教えてくれているように、このイエス様だけが私たちの罪を負って、私や皆さんの身代わりとなって裁かれてくださいました。このイエス様以外に、私たちの罪を負って、罪の清算をなさってくださった方はおりません。…と言うことは、つまり、罪の赦しは、このイエス様以外には無い！ということの意味します。

イエス様は、私や皆さんの罪を赦すために…。その罪を清算するために、神が与えてくださった唯一の生贄であり、救い主でありました。だから、バプテスマのヨハネは、イエス様のことを見て、『見よ、世の罪を取り除く神の小羊。』(ヨハネ 1:29)と言ったのです。このように、イエス様には決して避けることができない、大切な務めがありました。それは、私や皆さんの罪を負って、十字架で死ぬことでありました。イエス様は、実に、私たちを救うための道を備えるために、十字架にかかってくださったのです。そのことを、イエス様は、エマオ途上にいた、クレオパたちにもう1度、改めて教えてくださったのです…。

## Ⅱ・聖書のみことばが持っている、有益性！(27-35 節)

次に、今日のみことばが教えてくれていますのは、聖書のみことばだけが持っている、“有益性”であります。どうぞ、今度は、今日のみことばの 27-35 節をご覧ください。

27 それから、イエスは、モーセおよびすべての預言者から始めて、聖書全体の中で、ご自分について書いてある事ごらを彼らに説き明かされた。

28 彼らは目的の村に近づいたが、イエスはまだ先へ行きそうご様子であつた。

29 それで、彼らが、「いっしょにお泊まりください。そろそろ夕刻になりますし、日もおおかた傾きましたから」と言って無理に願ったので、イエスは彼らといっしょに泊まるために中に入られた。

30 彼らとともに食卓に着かれると、イエスはパンを取って祝福し、裂いて彼らに渡された。

31 それで、彼らの目が開かれ、イエスだとわかった。するとイエスは、彼らには見えなくなった。

32 そこでふたりは話し合った。「道々お話しになっている間も、聖書を説明してくださった間も、私たちの

心はうちに燃えていたではないか。」

33 すぐさまふたりは立って、エルサレムに戻ってみると、十一使徒とその仲間が集まって、

34 「ほんとうに主はよみがえって、シモンにお姿を現された」と言っていた。

35 彼らも、道であつたいろいろなことや、パンを裂かれたときにイエスだとわかった次第を話した。

#### ●弟子たちに対して、イエス様が語ってくださった内容

さて、この時、イエス様がクレオパたち弟子たちに対して、なしてくださった1番のことは、自分の正体を明らかにすることではありませんでした。この時、イエス様がなしてくださったのは、聖書のみことばを解き明かして、彼らに対して、ご自分について書いてある事柄を説明してあげることであつたのです。もちろん、ここに書かれてある『聖書』と言いますのは、今私たちが手にしている「旧約聖書」のことを言います。…と言いますのは、まだ、この時点では、新約聖書は、ただの1行も書かれていなかったからです。その旧約聖書の中から、イエス様は、ご自分について書いてある事柄を解き明かしてくださったのです。

ここ 27 節で、『モーセ』とあるのは、所謂、「モーセ五書」のことです。「モーセ五書」と言いますのは、旧約聖書の初めにまとめられてある5巻の書物であります。何と、イエス様に関する預言は、この旧約聖書の初め、モーセ五書からも始まっているのです。

それは、例えば、創世記 3:15、神である主が、蛇の姿をしたサタンにこうおっしゃっています。『わたしは、おまえと女との間に、また、おまえの子孫と女の子孫との間に、敵意を置く。彼は、おまえの頭を踏み碎き、おまえは、彼のかかとにかみつく。』と書かれてありますが、このみことばは、約束の救い主が、『女の子孫…』、つまりは、処女がみごもって、子どもを産むということを予言していると解釈することができます。また、その救い主が、悪魔の業を踏み碎いて、悪魔の策略を打ち砕くのである！ということを教えてくれています。

これ以外でも、特に有名なのは、創世記 22 章、神がアブラハムに対して、約束の子であるイサクを捧げなさい！と命じられたところです。この時、アブラハムは神様の約束を信じて、イサクを神様に捧げようとした。しかし、実際には、そのイサクが捧げられることはなく…、その代わりに、雄羊が捧げられて…、それによって、イサクは助かりましたでしょ？実は、この物語は、救い主イエス様による贖いを預言してくれています（ヘブル 11:17-19）。

それだけではなく。創世記の次の書である出エジプト記では、実は、あの過越の時にほふられた子羊が、救い主であるイエス様のことを指し示している！ということが分かります。幕屋だって、そうです。また、レビ記に出てくる生贄だって、実は、イエス様のことを指し示しています。そうです！このように、旧約聖書には、救い主イエス様のことを予見してくれている言葉やストーリーがたくさん散りばめられているわけで…、イエス様はそういったことを、この時に、クレオパたちに説き明かしてくださったのです。

#### ●みことばを教えられた弟子たちに起こった変化

ここで、ぜひ、私たちが注目したいことは、この時に、弟子たちに起こった変化であります。今日のみことばに出てくる…、イエス様に出会う前の弟子たちは、間違いなく失意の中におりました…。それもそのはずで、彼らは少し前に、自分たちが信じ期待をしていたイエス様のことを、見るも無残に十字架という死刑によって失ってしまったからです。しかし、そんな失意の中であつて、落ち込んでいた弟子たちを励まし、燃え上がらせるものがありました。それは、一体、何だったでしょう？

⇒それは、聖書のみことばでありました！もっと言えば、みことばの説き明かしでありました。そうでしょう？だから、彼らは、みことばを説き明かしてくださっているイエス様のことを…、（イエス様とは知らずにではありましたが、）29 節をご覧くださいますと、一緒に泊まってくさるようと、『無理に願った…』わけですから…と言うのも、弟子たちにとって、そのみことばの説き明かしこそが、非常に大きな励ましを与えてくれ

たからです。そうじゃありません？

どうぞ、もう少し後の 30 節以降をご覧ください。この時、イエス様とクレオパたちの一行とは、目的地であつたエマオに到着しました。そこで、クレオパたちは、無理を言って、イエス様に同行を願います。そこで彼らは、食卓に着くのです。恐らく、それは遅い昼食か、早い夕食であつただろうと思われれます。その時になって、初めて、クレオパたちは、一緒におられた方がイエス様であつた！ということに気付くのです。…と言うのも、その瞬間に、彼らの目が開かれたからです。…しかし、その瞬間、イエス様は、そこから居なくなつてしまわれました…。

どうぞ、皆さん。その後の、32 節に注目してください。彼らは話し合つて、こんなことを証ししてくれています、『道々お話しになっている間も、聖書を説明してくださった間も、私たちの心はうちに燃えていたではないか。』って…。皆さん、聞いてくださいました？この時、クレオパたちの心を、その内側から燃やしてくれたのは、イエス様の復活という事実ではありませんでした。彼らの心を燃やしてくれたのは、みことばであり…、もう少し言えば、みことばの説き明かしであつたのです！…だって、この時点で弟子たちは、イエス様が復活されたという事実をまだ知らなかったからです！…そうでしょ！彼らのことを励まし…、また、勇気づけたのは、聖書のみことばの説き明かしであつたのです。

今日のみことばに出てくるクレオパたちは、イエス様による聖書の説き明かしによって励まされ…、また、霊的に成長させられました。だから、彼らは、その後、どうなりました？⇒何と彼らは、夕方頃、エマオに到着したにも関わらず…、すぐに、その足でエルサレムへ行つて、弟子たちと喜びを分かち合おうとしたのです。エマオからエルサレムへは、片道 11km 余りということなので、時間にすれば、数時間というところでしょうか？しかし、恐らく、彼らは、その 11km の道のりを喜び勇んで、エルサレムまで駆けて行ったことと思います。このように聖書のみことばは、私たちの内側から私たちのことを強め…、また、励ましてくれるものであるのです。

だから、聖書のみことばは、こう教えるのです！…例えば、1 ペテロ 2:2、『生まれたばかりの乳飲み子のように、純粋な、みことばの乳を慕い求めなさい。それによって成長し、救いを得るためです。』って…。このみことばは、私たちが救われて…、霊的に成長させられるために必要なのは、ただ、聖書のみことばだけで十分である！ということをお教えてくれています。

でも、皆さん、知っていましたか？…実は、岡田先生も、私も、今、多くのキリスト教会では、そういったような「みことばの説き明かし」がなされていない！という風に思っています。確かに、日曜日の礼拝では、多くの教会で聖書のみことばが紹介されて…、その当日は、そのみことばと「関連のある話し」がメッセージされています。…しかし、聖書のみことばを説き明かすのと、聖書のみことばと関連のある…、牧師先生の経験談や有名なエピソードなどを語ることは違います。申し訳ありませんが、そういったものは、みことばの説き明かしとは言えません。

実は、少し前に私が聞いた礼拝のメッセージも、時間的に、メッセージの半分は、そのメッセンジャーの経験談でした。確かに、その内容は、興味深く、波乱万丈で、とても面白かつたのですが、正直、私からすると、「みことばの説き明かし」とは思いませんでした。そういったようなメッセージは、聞きやすく、面白いのですが、長い目で見て、心に残らないのではないかと？あまり、その人に霊的な成長を促さないのではないかと？と思つてしまいます。でも近頃は、そういったような…、みことば“を”語るメッセージと言うよりも、聖書のみことばと関連した内容に“ついて”語るメッセージが多い傾向にあるのだそうです。…私たちは、キリストを“かしら”とするキリスト教会を構成しているのであって、それゆえに、ここの講壇から語られるべきメッセージが、どういったものであるべきなのか？ということについて、よく考え…、また、吟味しなければならないのではないのでしょうか？

### Ⅲ・イエス様の復活が保証してくれている、**確実性**！（36-43 節）

そうして、最後に、今から駆け足で学んでいきたいのが、**イエス様の復活が保証してくれている、“確実性”**とも言えるべきものであります。どうぞ、今日のみことばの内、36-43 節をご覧ください。

36 これらのことを話している間に、イエスご自身が彼らの真ん中に立たれた。

37 彼らは驚き恐れて、霊を見ているのだと思った。

38 すると、イエスは言われた。「なぜ取り乱しているのですか。どうして心に疑いを起こすのですか。

39 わたしの手やわたしの足を見なさい。まさしくわたしです。わたしにさわって、よく見なさい。霊ならこんな肉や骨はありません。わたしは持っています。」

41 それでも、彼らは、うれしさのあまりまだ信じられず、不思議がっているのを、イエスは、「ここに何か食べ物がありますか」と言われた。

42 それで、焼いた魚を一切れ差し上げると、

43 イエスは、彼らの前で、それを取って召し上がった。

#### ●イエス様が証明してくださったこと

今読んだみことばに書かれてありましたように…、11 人の弟子たち（実際は 10 人？）とクレオパたちが交わりを持っていると、いきなり、その真ん中に、イエス様が現れます。恐らくは、そのイエス様の登場があまりにも突然であったためでしょうか？あるいは、この時に至っても、まだ彼らの中に疑いが残っていたせいでしょうか？その時、イエス様の弟子たちは、『**驚き恐れて、霊を見ているのだと思った。**…』（ルカ 24:37）と、教えられてあります。ひょっとしたら、彼らはイエス様が、まるで、幽霊が何かのような、実体を伴わない幻のように勘違いしてしまったのかも知れません。

そこでイエス様は、決して自分が幽霊や幻ではないことを証明するために、①ご自分の手足を見せてくださっただけでなく…、②自分の体を触りなさい！ということをお勧められます。また、それだけではなく…、③『**焼いた魚**』を取って、それを食べられたのです。そういったことによって、イエス様は、ご自分が本当に復活された故に、肉体を持っている！ということを証明してくださったのです。

間違いなく、イエス様は復活されました！そしてイエス様は、間違いなく、私たちと同じような『**肉や骨**』を持って、復活してくださいました。決して、イエス様の復活は、単なる霊的なものや、幻の類ではありませんでした…。実は、これ以降、たくさん間違った教えが出てきて…、その中には、イエス様の復活が単なる霊的なもので、本当の肉体を伴ったものでは無かった、というようなことを教えるグループが出てきました。そういったグループの中で、今、1 番有名なものは、エホバの証人も知れません。彼らは、イエス様が実際の肉体を持って復活されたことを信じません。でも、今日のみことばを見てみますと、明らかに、イエス様自身がそういったことを否定しておられます。

#### ●被造物が今も待ち望んでいることは？

でも、確かに、今日のみことばが教えてくれていることは、①**イエス様の復活は、実際の肉体を持って**のものであったということと…、②もう 1 つは、その新しい体は、ドアが閉めきってあっても入ることができるような、今の私たちが持っているような体と同じように見えても…、実際は、幾つかの違う部分がある！ということです。

時々言われることは、「**イエス様の弟子たちは、イエス様が死んで終わりではなく…、もう 1 度復活して**現れてくださることを、強く心待ちにしていたから、つい、そんな風な幻を見てしまったのではないか？」という批判がありますが、今日のみことばだけでなく、多くの聖書のみことばがそういったことを否定しています。…と言いますのは、実に、多くの聖書のみことばは、イエス様の弟子たちが、イエス様の復活を期待して

いなかった…、あるいは、想像だにしていなかったことを教えてくれています。そうではないでしょうか？

**今日のみことばを見て分かりますことは、間違いなく、イエス様は肉体を持って復活してくださいました！**ということ。この聖書のみことばは教えてくれている！ということです。イエス様の復活は、単なる、幻でも、幽霊のような類の話でもありません！イエス様は、実際の肉や骨をもって復活してくださいましたのです！…と言うことは、実は、私たちクリスチャンも、イエス様の後に続いて、復活させられる！ということです。

**そういったことが、ローマ 8:19-24 では、こんな風に教えられています。『19 被造物も、切実な思いで神の子どもたちの現れを待ち望んでいるのです。20 それは、被造物が虚無に服したのが自分の意志ではなく、服従させた方によるのであって、望みがあるからです。21 被造物自体も、滅びの束縛から解放され、神の子どもたちの栄光の自由の中に入れられます。22 私たちは、被造物全体が今に至るまで、ともにうめきともに産みの苦しみをしていることを知っています。23 そればかりでなく、御霊の初穂をいただいている私たち自身も、心の中でうめきながら、子にいただくこと、すなわち、私たちのからだの贖われることを待ち望んでいます。24 私たちは、この望みによって救われているのです。目に見える望みは、望みではありません。だれでも目で見ていることを、どうしてさらに望むでしょう。』⇒ここで、みことばが教えてくれていますように、イエス様の復活は、ただイエス様だけの復活で終わるものではなく、その後、多くのクリスチャンたちが経験し…、最後には、被造物にまで続いていくものであります。**

#### <励ましの言葉>

**皆さん、覚えてくださっています？ 私たち人間が罪を犯してしまったことによって、神様によって造られた、この世界は大きく変えられてしまいました。…例えば、それ以降、女性たちは産みの苦しみを経験することになってしまい…、それまで好ましいものであった夫婦の関係は、お互いを支配し合うような醜いものへと変わってしまいました。また、それだけではなく…、土地さえも呪われてしまって、いざらやあざみが生えるようになってしまったのです。**

**そうして、1 番の呪いは、私たち人間が真の神様との…、それまでにあった良好な関係が壊れて、死ぬべき存在…、神様によって裁かれるべき存在となってしまったことです。しかし、神様が与えてくださった福音の恵みは、私たちが救われて…、私たちだけが救われて、それで終わるものではありません。神様は、私たち人間の罪によって呪われたものとなってしまった、この世界さえも、元のように変えてくださるのです。真の神様は、赦しの神様であり…、また、回復の神でもあられます！神様は、私たち人間が罪を犯したことによって…、大きく変わってしまった、この世の中をもう 1 度、祝福に満ちた世界へと戻してくださるのです（イザヤ 11 章：千年王国）。**

**イエス様の「肉体を伴った復活」は、私たちクリスチャンもまた、肉体を持って復活させられる！**ということを教えてくれています。そうして、私たちクリスチャンが肉体を持って復活させられるということは、私たちは、この地上で送った以上の祝福や恵みを、天国にあつて経験できるということを教えてくれているのです。真の神様には、そういったことが可能なのです！どうぞ、まだ信仰をお持ちでない皆さんも、1 日も早く、この神様のことを信じていただきたいと思います。

**そして、クリスチャンである皆さんは、イエス様が迎えに来てくださるということを心待ちにして、この救いのメッセージを皆さんの語る言葉だけでなく…、皆さんの行ないや日々の生き方を通して、証しする者となっていただきたいと思います。最後に、お祈りをもって、今日のメッセージを終わらせていただきます。**